



技術本部長兼CTO
大久保 誠一

研究開発は、新中期経営計画「プラン“BEGIN”」の達成に向けて大きな役割を担っています。研究開発の方向性や戦略を明示し、開発推進体制をさらに進化させることで、プラン“BEGIN”の達成と、長期的な企業体質の強化を目指していきます。

プラン“BEGIN”における研究開発の方向性

スタートしたプラン“BEGIN”では、第二の創業スタートという視点から、3つの重点ターゲット分野を設定し、重点的に事業を拡大していきます。新しい技術、新しい製品、新しい事業を生み出すことで成長・拡大を促進していきます。これからの研究開発には、将来の競争優位性や付加価値の増大に貢献する技術の確立・拡大と、スピードアップ・効率性の向上が必要となっていきます。その意味で、方向性をきちんと明示し、戦略性を持って開発を推進することで、「会社全体の収益力アップにつながる研究開発」を目指していきます。

研究開発体制の強化

CTOの設置、研究開発体制の強化

研究開発戦略立案	技術本部	中長期的な研究開発戦略の立案	
		材料技術研究開発センタ	次世代材料に関する研究開発
研究開発の推進	研究開発本部	電子材料研究開発センタ	電子材料に関する研究開発
		フォトンクス研究開発センタ	光関連技術の研究開発
		クロステクノロジー開発センタ	各研究開発センタの枠を越えた研究開発
		開発統括部 開発部	事業本部に直結した製品開発
製品開発			

研究開発体制

技術本部、研究開発本部、各事業本部の開発部門の3つに分けて、研究開発を推進していきます。技術本部は、中長期的な研究開発戦略を担当し、強い技術をさらに強くする技術戦略を外部連携も視野に入れて立案していきます。研究開発本部は、材料技術研究開発センタ、電子材料研究開発センタ、フォトニクス研究開発センタ、クロステクノロジー開発センタの4つで構成され、個別の技術や製品の開発に加え、種々の技術を組み合わせることで実現できる技術や製品の開発を行います。こうした開発は、研究開発本部単独ではなく、事業本部や営業本部、さらにはお客様と連携しながら推進していきます。事業本部に直結した研究開発に取り組むのが各事業本部の開発部門で、研究開発本部や生産技術本部との連携を活かしながら、スピードを最優先させた開発を推進します。

研究開発のスピードアップの実現

スピードアップを図るためには、市場動向の把握や戦略を含めた情報の共有化、マネジメント指標の図表化、研究開発者の技術スキルが重要です。そのために、まず情報の共有化では、研究開発本部を中心

に、前期から実施している討論会や連絡会等を引き続き行っていきます。指標の図表化では、簡便な計画書を作成して計画や目標となる指標等を明示し、それによって開発の集中度を高め、効率を上げていきます。研究開発者のスキルアップでは、社内外の研修にも積極的に参加し、継続的に向上を図っていきます。さらに、選択と集中、外部開発機関との連携によるスピードアップにも取り組みます。企業を取り巻く最近の経済環境から、長期的な研究資源の投入は難しくなっており、開発テーマの選択と集中等を図ることでスピードを上げることが必要です。また、研究開発者についても、研究テーマの創造性を高く評価するとともに、研究開発者の競争に関する意識改革を継続的に行い、スピードアップにつなげていきます。

知的財産

知的財産は事業戦略上の重要な経営資産であり、研究開発・製品開発から生まれた知的財産を権利として適正に取得し、製品・技術の差別化や、事業優位性の確保のために有効に活用していきます。それとともに、特許を防御するだけでなく、創造的特許や優位性のある特許を取得することによって競争力を高めていきます。特に、外国での出願特許件数の引き上げを強化し、長期的な企業価値の向上につなげていきます。

特許出願件数の推移(日立電線単独)

